

# 第26回（2022年度）

# 国際開発研究 大来賞

OKITA Memorial Prize for International Development Research

## 受賞候補作品 募集のご案内

主催：一般財団法人 国際開発機構（FASID）

「国際開発研究大来賞」は、学術の振興、国際開発の分野における研究奨励と促進、優れた図書の発掘に資するため、国際開発の様々な課題に関する優れた指針を示す研究図書を顕彰するものです。  
みなさまからのご推薦・ご応募をお待ちしております。

### 対象となる作品

- (1) 開発援助を含む国際開発の分野における課題を主たるテーマとする日本語の研究図書（翻訳、随筆、エッセイ、体験記、自伝、紀行文、事業報告書などを除く）であって、国際開発の実践活動の向上に資するもののうち、特に斬新性、普及性の点で顕著な業績、貢献が認められるもの。
- (2) 個人、又は団体が編者あるいは著作者の場合は、個人の執筆者名が明記されているもの。
- (3) 2021年4月1日から2022年3月31日までの間に初版が国内で市販されたもの。

### 審査・表彰

**表彰** 審査委員会で選考された作品に対し 正賞（楯）と副賞（50万円）を贈呈します。

**審査** 当財団国際開発研究センターによる予備審査を経て、審査委員会が行います。

委員長	杉下 恒夫	FASID理事長
委員（予定）	絵所 秀紀	法政大学名誉教授
	大野 泉	政策研究大学院大学教授
	北野 尚宏	早稲田大学理工学術院国際理工学センター 教授
	滝澤 三郎	東洋英和女学院大学大学院 名誉教授, ケア・インターナショナル・ジャパン 副理事長
	藤田 伸子	FASID専務理事

推薦者（自薦・他薦いずれも歓迎）は、所定の推薦用紙に入力し、電子メールに添付して(okita@fasid.or.jp)宛へ送信とともに、当該図書2冊を添えてご応募下さい。なお応募書類・当該図書は返却致しませんので、あらかじめご了承ください。

**推薦用紙** 以下のウェブサイトからダウンロードして下さい。

[http://www.fasid.or.jp/award\\_detail/2\\_index\\_detail.shtml](http://www.fasid.or.jp/award_detail/2_index_detail.shtml)

**締切り** 2022年5月31日（火）

### 受賞作品の発表と表彰式

2022年11月頃に推薦者へ通知、発表し、表彰式・記念講演会を行います。

### 推薦・応募・お問い合わせ先

一般財団法人 国際開発機構 国際開発研究センター（担当：服部）

〒106-0041 東京都港区麻布台2-4-5 メソニック39MTビル6階

email: okita@fasid.or.jp TEL: 03-6809-1997 FAX: 03-6809-1387 <http://www.fasid.or.jp>

## 大来 佐武郎 氏 略歴

おおきた さぶろう 1914年旧満州大連市に生まれる。1937年東京帝国大学工学部卒業、通信省入省。戦後は、経済安定本部、経済企画庁においてエコノミストとして活躍。1963年に同庁総合開発局長退官、1964年日本経済研究センター理事長就任、南北問題や開発援助分野で活躍。国際開発計画委員会(ティンバーゲン委員会・ピアソン委員会)の委員や、『成長の限界』を刊行したローマクラブのメンバーを務める。1971年国際開発センター理事長、1973年海外経済協力基金総裁などを歴任し、1979年の大平政権において外務大臣を務める(～80年)。その後も国際大学学長、対外経済問題諮問委員会座長、FASID初代評議員会会長、国際開発学会会長等、国際開発分野で数多くの足跡を残す。1993年逝去。

## これまでの受賞作品

- 第1回 廣瀬昌平・若月利之著 『西アフリカ・サバンナの生態環境の修復と農村の再生』 農林統計協会 1997年  
原 洋之介著 『開発経済論』 岩波書店 1996年
- 第2回 絵所秀紀著 『開発の政治経済学』 日本評論社 1997年  
深川由起子著 『韓国・先進国経済論 -成熟過程のミクロ分析』 日本経済新聞社 1997年
- 第3回 中兼和津次著 『中国経済発展論』 有斐閣 1999年  
辻村英之著 『南部アフリカの農村協同組合 -構造調整政策下における役割と育成』 日本経済評論社 1999年
- 第4回 峯 陽一著 『現代アフリカと開発経済学 -市場経済の荒波のなかで』 日本評論社 1999年
- 第5回 黒崎 卓著 『開発のミクロ経済学』 岩波書店2001年  
西川 潤著 『人間のための経済学 -開発と貧困を考える』 岩波書店 20021年
- 第6回 石井正子著 『女性が語るフィリピンのムスリム社会』 明石書店 2002年  
脇村孝平著 『飢餓・疫病・植民地統治 -開発の中の英領インド』 名古屋大学出版会2002年
- 第7回 平野克己著 『図説 アフリカ経済』 日本評論社 2002年
- 第8回 石井菜穂子著 『長期経済発展の実証分析』 日本経済新聞社 2003年  
安原 毅著 『メキシコ経済の金融不安定性』 新評論 2003年
- 第9回 藤田幸一著 『バングラデシュ 農村開発のなかの階層変動 -貧困削減のための基礎研究』 京都大学学術出版会 2005年
- 第10回 谷 正和著 『村の暮らしと砒素汚染 -バングラデシュの農村から』 九州大学出版会 2005年
- 第11回 湖中真哉著 『牧畜二重経済の人類学 -ケニア・サンプルの民族誌的研究』 世界思想社 2006年
- 第12回 牧田りえ著 『Livelihood Diversification and Landlessness in Rural Bangladesh』 The University Press Limited 2007年
- 第13回 武内進一著 『現代アフリカの紛争と国家 -ポストコロニアル家産制国家とルワンダ・ジェノサイド』 明石書店 2009年
- 第14回 田辺明生著 『カーストと平等性 -インド社会の歴史人類学』 東京大学出版会 2010年
- 第15回 該当作なし
- 第16回 佐藤百合著 『経済大国インドネシア -21世紀の成長条件』 中央公論新社 2011年
- 第17回 森 壮也・山形 辰史 著 『障害と開発の実証分析 -社会モデルの観点から』 勁草書房 2013年  
山尾 大著 『紛争と国家建設 -戦後イラクの再建をめぐるポリティクス』 明石書店 2013年
- 第18回 柳澤 悠 著 『現代インド経済-発展の淵源・軌跡・展望』 名古屋大学出版会 2014年
- 第19回 古川光明著 『国際援助システムとアフリカ -ポスト冷戦期「貧困削減レジーム」を考える』 日本評論社 2014年
- 第20回 宮城 大蔵編著 『戦後日本のアジア外交』 ミネルヴァ書房 2015年
- 第21回 田中 由美子 著 『「近代化」は女性の地位をどう変えたか』 新評論 2016年  
佐藤 仁 著 『野蛮から生存の開発論：越境する援助のデザイン』 ミネルヴァ書房 2016年
- 第22回 堀江 未央著 『娘たちのいない村 -ヨメ不足の連鎖をめぐる雲南ラフの民族誌』 京都大学学術出版会 2018年
- 第23回 友松 夕香著 『サバンナのジェンダー -西アフリカ農村経済の民族誌』 明石書店 2019年
- 第24回 谷口 美代子著 『平和構築を支援する-ミンダナオ紛争と和平への道』 名古屋大学出版会 2020年
- 第25回 下條 尚志著 『国家の「余白」-メコンデルタ 生き残りの社会史』 京都大学学術出版会 2020年  
下村 恭民著 『日本型開発協力の形成 -政策史1・1980年代まで』 東京大学出版会 2020年